

難病患者の受診や 就労機会確保へ連携



難病患者の支援などに取り組む認定NPO法人みらいプラネット（防府市）は23日、医療・福祉分野と連携するため、山口総合健診センター（山口市）、就労継続支援B型事業所心の里あらいぶ（同）と協働宣言を採択した。難病患者の受診や就労機会を確保することで病気に対する理解促進につなげる。

協働宣言に署名した（左から）みらいプラネットの有富健理事長と山口総合健診センターの西山達矢理事長、心の里あらいぶの本郷伊吹管理者＝23日、県庁

みらいプラネットの有富健理事長によると、新型コロナウイルス禍で難病患者が県外での診療を控え、専門的な医療を受けられないケースがあるという。同センターで健康診断を受けることで他の病気の予防にも役立てるほか、あらいぶが本人のペースに合った就労をサポートする。

3者の代表者が宣言書に署名し、県庁で会見を開いた。有富理事長は、この1年間で病気に関する相談が過去9年間の累計に並ぶ千件寄せられたことを明かし、病気への理解が進んでいないと指摘。自身も原因不明の「難治性血管奇形」の患者で、「健診や働ける場は心の支えになる。本来の共生社会の実現を目指したい」と述べた。

同センターの西山達矢理事長は、難病患者や障害者が健診を受けやすい仕組みを検討する考えを示した。1日に開所したあらいぶの本郷伊吹管理者は「就労の喜びを感じられるよう手助けしたい」と話した。

（岩崎新）

山口新聞

令和3年4月25日



宣言書を交わし記者会見する有富理事長（左）たち

難病患者・障害者 支援へスクラム

山口と防府 3者が宣言

山口市と防府市にある健診機関と福祉施設、NPOの3者が23日、難病患者や障害者を一緒に支援していく宣言をした。働く場を連携してつくり、病気や障害への理解を深めて差別や偏見のない社会を目指す。

3者は山口総合健診センター（山口市）、就労継続支援B型事業所心の里あらいぶ（同市）、病気で悩みを抱え

る患者の支援などに取り組んでいる認定NPO法人みらいプラネット（防府市）。健診センターが仕事をあらいぶに依頼し、障害や疾患に応じて各自のペースで働ける機会を提供していく。

健診センターによると、年間約2万人が受診する中で障害者や難病患者の利用は少ないという。他の病気を予防するため、受診を促すサポートにも力を入れる。県庁で宣言書を交わし、難病患者でもあるみらいプラネットの有富健理事長は「働く場があれば生きがいや心の支えになる」と力を込めた。（渡辺裕明）

中国新聞

令和3年4月24日

認定NPOみらいプラネット

医療・福祉機関と協働宣言

健診や就労機会確保でQOL向上



宣言書を手にする（左から）有富理事長、西山理事長、本郷管理者

難病患者や障害者の人権擁護などに取り組み認定NPO法人みらいプラネット（新橋町）は23日、山口総合健診センター（山口市小郡下郷）、就労継続支援B型事業所「心の里あらいぶ」（同）と医療・福祉に関する協働宣言をした。患者や障害者が健康診断を受診する機会と働く場を確保し、生活の質（QOL）を向上させる狙い。

この日、県庁で同法人の有富理事長、同センターの西山達矢理事長、同事業所の本郷伊吹管理者が宣言書に押印をした。有富理事長は「医

療・福祉との連携で患者や障害者の支援体制を一層強化するとともに、理解も進んで共生

社会の実現を目指していきたい」と力を込めた。

有富理事長によると、新型コロナウイルス禍で一部難病に指定されている難治性血管奇形の患者は、県外の主治医を受診する機会が激減。自宅で過ごしている間に、他の病気を併発する恐れもあるという。同法人は健診センターに対し、体調が思わしくない患者の具体的に調べてほしい箇所を伝える役割などを果たすという。

また、年間約2万人が受診する健診センターでは「障害者は極めて少ない」（西山理事長）状況で、

宣言を機に障害の程度に応じた検査の仕方なども模索していく。西山理事長は「（持病など以外の）未病に気付いていない人は多いはず。患者らと直接話をしながら、受診機会を増やしていきたい」と話している。

雇用契約を結んで働くのが困難な人に軽作業をしてもらおう「あらいぶ」は、1日に開設されたばかり。健診センターで症状や障害、個人の特性に応じて、パソコン入力や清掃、郵便物の封入などの仕事がある。「本人のペースで、できる仕事をしてもらい、社会参加と就労の喜びを知る機会を失わないようサポートしたい」と本郷管理者。

有富理事長は「実際に働く、働かないでなく、将来的に働く場があるのは、必要とされているということ。患者らにとっ

て希望が持てるし、心の支えになる」と、意義を強調する。

（吉野敦裕）

山口の事業所

◁ 難病患者支援へ協定 ▷ 就労や啓発活動で協力

防府のNPO



難病患者の就労支援や啓発に関する協定を締結した有富理事長（左）ら

静脈や毛細血管がもつれて腫瘍化する「難治性血管奇形」などの難病患者を支援する防府市のNPO法人「みらいプラネット」（有富健理事長）は、山口市の就労継続支援B型事業所「心の里あらいぶ」などとの間で、難病患者の就労支援や就労に向けた啓発活動に関する協定を結んだ。一方、雇用契約をせずに労働機会を提供するB型事業所は、勤務時間などを柔軟に設定できるため、難病の特性に応じた働き方が可能だが、そのことが難病患者に十分周知されていない。

難治性血管奇形は体のどの部位にも発症し、痛みや発熱、腫れなどの症状を伴うが、見た目には大きな変化がない。障害者手帳をもらえないため、患者は体調が悪くても勤務先に理解されにくいなど困難に直面している。今回の協定締結で、みらいプラネットは就労を希望する難病患者に対し「心の里あらいぶ」を紹介し、同事業所も患者の特性に応じた仕事を提供する。さらに、今後は難病患者の就労に向けた啓発活動に協力して取り組んでいく。県庁で記者会見した有富理事長は「難病患者は闘病だけでなく、働きがいも求めている。難病だからといって排除せず、理解し合える共生社会を目指したい」と話していた。

【平塚裕介】

5月10日FMわっしょい「認定特定非営利活動法人みらいプラネット」出演！

2021年06月04日(金)
FMわっしょい

5月10日、
FMわっしょい「あなたからあなたへハート to ハート」
この日の出演は、

認定特定非営利活動法人みらいプラネット

理事長 **有富健**さんと

就労継続支援B型事業所 心の里あらいぶ

管理者 **本郷伊吹**さんです！



認定特定非営利活動法人みらいプラネットは、
患者や障がい者などの社会的弱者が、
病気への無理解や先入観によって
差別やいじめを受けることのないように、
差別と偏見の撤廃・排除を行なっています。
また、難治性血管奇形という難病の啓発を行っています。

今回は、4月23日に山口県庁で行われた
協働宣言についてお話ししていただきました！

認定特定非営利活動法人みらいプラネットは、
医療・福祉と連携し、難治性疾患患者や障がい者の支援のため、
一般社団法人山口総合健診センターと
就労継続支援B型事業所 心の里あらいぶと協働宣言を行いました。
障がい者福祉・就労機会を充実させ、
患者や障がい者に対して質の高い医療・福祉を
提供することによって、患者や障がい者を
救済することを目的としています。

就労継続支援の事業所には、A型、B型、
就労移行支援の3種類があるそうです。
A型は、週に20時間働くという決まりがあり、
雇用契約が結べるそうです。
B型は、自分の体調やペースに合わせて
働くことができるそうです。
就労移行支援は、働いたことのない方が
練習として働くそうです。

この協働宣言により、
認定特定非営利活動法人みらいプラネットに
相談に来られている方を
就労継続支援B型事業所 心の里あらいぶに紹介することで、
一般社団法人山口総合健診センターで働くことができるそうです。
働く内容は、問診票の作成したりや花壇をつくったりなど
本人の得意なことを活かせるそうです。

病気や障害を持っている人は、
誹謗中傷や病気や障害に対する無理解により
不安を抱えています。
自分の体調やペースに合わせて働くことで、人とのつながりや
社会に少しでも役に立っていると感ずることができ、
闘病や働きがい、生きがいになるそうです。